



井村有希・水沢清行共著  
 「日本産オサムシ図説」  
 昆虫文献六本脚  
 2013年9月20日発行 368 pp.  
 定価 25,714 円

「世界のオサムシ大図鑑」(むし社, 1996)の著者コンビによる, 日本産オサムシの図説である。2013年春の時点までに知られている全種全亜種(39種193亜種)が網羅されている。A4判ハードカバーで, 重量は2.2kgもあり, 日本産甲虫の1グループを扱った図鑑としては最大級のボリュームである。カラープレートは同社の歴代のコガネ図説で培われた画像処理のノウハウを活かし, さらに洗練された非常に美しいものとなっている。全体の構成は, 総論部分で用語の解説と種までの図解検索が示された後に, 「日本の地方区分と県」「日本の島」というページが設けられている。邦産オサムシの種までの図解検索が示されたのは初めてのことで, 種の同定をするうえでよい手引きとなるに違いない。本文は英文と和文で書かれており, 国際的な使用を強く意識したものと言える。

各論は, 各種ごとにカラープレートとそれに続く解説, 分布図, および生態写真によって構成されている。カラープレートの1ページ目には, 上段に雌雄成虫の背面像と, 頭胸部・前附節・前脛節・鞘翅の拡大像, 下段には交尾器の画像が示されている。成虫は拡大率が高く, 細部の構造まで認識できる。雄交尾器の内嚢を完全に反転させた状態で各方面から描写してある点は, 本書の特筆すべき特徴といえよう。個々の論文で, 分類形質として重視される陰茎先端や交尾片の形態が図示されることは多いが, 同一の基準で処理された完全反転下の内嚢を含む交尾器の全貌を一冊の書物の中で比較できることの意義は大きい。地理的変異を示すプレートでは, 多型種の場合, 最大3プレートが費やされ, 既知の全亜種の画像が示されている。オサムシは記載されている亜種の数非常に多く, さまざまな雑誌

でばらばらに記載されているので, これまでは個々の文献をあたって自分で整理するしかなかったが, このようにまとめて図示されていると比較もしやすいし非常に便利である。

種の解説は, 原記載, 研究史, タイプ産地, タイプ標本の所在, 形態, 分子系統, 分布, 生息環境, 生態, 地理的変異, 種小名の由来の11項目からなり, 必要に応じて保全に関する項目が加えられている。亜種では, 原記載, タイプ産地, タイプ標本の所在, 亜種の特徴, 分布, 亜種小名の由来と通称からなり, 両者を合わせてオサムシを知るうえで必要な内容が網羅されている。全タクソンに亘って, タイプ産地に関する検討やタイプ標本の保管先などが書かれており, 海外の保管施設を訪れて確認作業を行なった地道な苦労がうかがえる。分布の項では, とくに離島における記録の充実ぶりが目を引く。小島嶼に至るまで細かく分布域が拾われている。離島の分布調査は第二著者の水沢清行氏がとくに力を入れておられる分野で, 本書で初めて公表される多くの新知見が含まれている。分布図は左上に日本国内におけるその種の分布, 右下に亜種の分布を示す拡大図が載せられていて非常にわかりやすい。全体の半数以上の種に生態写真が付けられており, 巻末の引用文献も充実していて, すべてのタクソンの原記載論文を知ることができる。従来昆虫図鑑は, 成虫の背面像と簡単な解説のみで交尾器も図示されず引用文献も記されていないものが殆どであった。その意味から言えば本書は美しい写真のついたモノグラフと言えよう。

主著者の井村有希博士は, 校正不足で誤字脱字も多く, 決して満足の行く出来ではないと嘆いておられるようだが, 丁寧な正誤表が付けられており本書に含まれる膨大な情報量は小さなミスを補って余りあるものと言える。決して安価な本ではないが, 現時点で知られている全種・全亜種を網羅した, 新しいスタンダードとなりうる日本産オサムシの総合的な図説である。ぜひご一読をお勧めしたい。

(益本仁雄)